

## 令和2年度シラバス

教科名	家庭科	科目名	家庭基礎	履修学年	1年生	履修形態	必修
単位数	2単位	時数	70時間(50分授業)	担当者名	福原 なつき		

教科書	教育図書 『高等学校 家庭基礎 グローバル&サステイナビリティ』	副教材	教育図書 『家庭科55資料集』
-----	-------------------------------------	-----	--------------------

学習目標	人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
指導の重点	全ての分野において、自分の生活を振り返り、現状のまま継続して進めることと、改善が必要なことを見極めることができ、改善策を考え、実践する能力を育てます。

学期	考查	単元	時数	学習内容	評価の観点			
					関	思	技	知
第1学期	中間	I 家族・地域社会との共生 第1章 青年期の自立と家族 1. 人の一生とライフステージ 2. 家庭生活の成り立ち	7	・人の一生とライフステージと青年期の課題を理解する。 ・家庭生活の成り立ちを学び、家族が協力して家庭を築いていくことの重要性を考える。	○	○		○
		第2章 子どもの発達と保育 1. 子どもの発達を学ぶ 2. 子どもと育ち合う	9	・子どもの発達を学び、親の役割、子育て環境について考える。 ・子どもを産み育てることの意義を考える。	○	○	○	○
	期末	第3章 高齢期の生活 1. 超高齢社会を生きる 2. 高齢期の暮らしを支える仕組み	7	・高齢者の特徴や生活を学び、超高齢社会の現状と課題を考える。 ・高齢期の暮らしを支える仕組みを学び、地域や社会の役割を理解する。	○	○		○
		第4章 共生社会と福祉 1. 共生社会の実現のために ホームプロジェクトと、学校家庭クラブ活動	5	・共生社会の実現のための福祉や社会支援について理解する。 家庭や地域との繋がりを生かす活動について考える。	○	○		○

第2学期	中	Ⅱ生活の自立 第1章 食生活と自立 1. 人が食べるということ 2. 栄養と食品 3. 調理の基礎 4. これからの食生活	14	・食べるということを通して栄養や食品の選び方を学び、調理の基本的な技術を身につける。 ・生涯を見通した食生活を営むことができるようにする。	○	○	○	○
	期末	第2章 衣生活と自立 1. 衣服を着る 2. 衣服の成り立ち  第3章 住生活と自立 1. 住まいを見つめる 2. 安全で健康な住まい	9  9	・目的に応じて着装を工夫できるようにする。 ・衣服の成り立ちを学び、材料や構成の基本的な知識と技術を身につける。  ・住居の機能、地域とのかかわりを学ぶ。 ・安全で環境に配慮した住生活を考える。	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
第3学期	学末	第4章 消費生活と経済 1. 経済的な自立を目指して 2. 将来の経済生活を見通す 3. 消費者の意志決定	5	・経済的に自立し、生涯を見通した経済管理や計画を考える。 ・適切な意志決定に基づいて行動ができるようにする。	○	○	○	○
		第5章 ライフスタイルと環境 1. 継続可能な社会の実現を目指す	5	・生活と環境とのかかわりについて学び、継続可能な社会の実現のための工夫を考える。	○	○	○	○

計 70 時間 (50 分授業)

※ 評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現  
技：技能 知：知識・理解

(評価の基準と方法)

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の観点	家族・地域・社会との共生、生活の自立についての学びを通して関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むことができる。	家族・地域・社会との共生、生活の自立について、生活向上のための課題を見だし、解決に向けて考察し、工夫して創造する能力を身につけている。	衣食住、保育などに関する基礎的な技術を身につけている。	家族・地域・社会との共生、生活の自立についての基礎的な知識を身につけている。
評価方法	・授業への取り組み ・ノートやプリントなどの提出状況と整理状況	・定期考査 ・課題に対する考察	・実習に取り組む姿勢 ・作品の工夫 ・自己評価	・定期考査 ・ノートやプリントの内容

担当者から一言	家庭科は自分の人生・生き方を考える教科です。 今までの生活を振り返り、これからの生き方について考え、よりよい人生が送れるように生活に必要な技術や知識を含めた「生きる力」を身につけていきましょう。
---------	--